

根室振興局管内の二級河川における 減災に係る取組方針について

平成30年2月28日

根室振興局河川減災対策協議会

（根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町、釧路地方気象台、釧路開発建設部、
北海道警察釧路方面本部、北海道釧路方面根室警察署、
北海道釧路方面中標津警察署、根室振興局）

「根室管内の二級河川における減災に係る取組方針」 のポイント

関東・東北豪雨災害（平成27年9月）、北海道・東北豪雨災害（平成28年8月）により甚大な被害！
⇒「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へ意識を転換し、社会全体で取組が必要

平成29年7月 根室管内の二級河川を対象にした根室振興局河川減災対策協議会設立

根室市長、別海町長、中標津町長、標津町長、羅臼町長、釧路地方気象台長、釧路開発建設部長、根室振興局長

関係機関の協力（消防、自衛隊、警察）

堤防整備や河道掘削などハード対策を中心とした段階的な整備



氾濫することを前提とした減災のための取り組みとして、避難行動や水防活動などのソフト対策の推進

◆地形的特徴

- ① 北部の河川は、河川勾配や地形勾配が急である
- ② 南部の河川は、上流域は河川勾配が急だが、中～下流域は農地や市街地が広がっている低平地を流下

◆大規模水害時の主な特徴と課題

◇北部を流れる河川は、氾濫水の短時間流入により、**早期の避難困難水位到達に懸念**。また、主要な道路で**河岸侵食**等による**市街地・集落の分断**のおそれ。

◇南部を流れる河川は、上流域は急激な水位上昇により**早期の避難困難水位到達、河岸侵食**による被災のおそれ。**中～下流域は市街地等**が広がる低平地に**氾濫水が拡散**しやすく、**多くの住民が避難を余儀なくされ、公共施設や主要道路に浸水被害**のおそれ。

◇居住市町村外への**通勤、通学等を行う住民に対して発災時の情報発信不足による避難遅れに懸念**。また、根室管内は、国内外から多くの観光客が訪れるため、**観光客に対する水害リスク等の情報発信を適切に行うことが重要**。

◆取組内容のポイント

（ハード対策）

- ・洪水を河川内で安全に流すための河道掘削
- ・洪水時の避難勧告等の発令判断に活用する危機管理型水位計の整備

（ソフト対策）

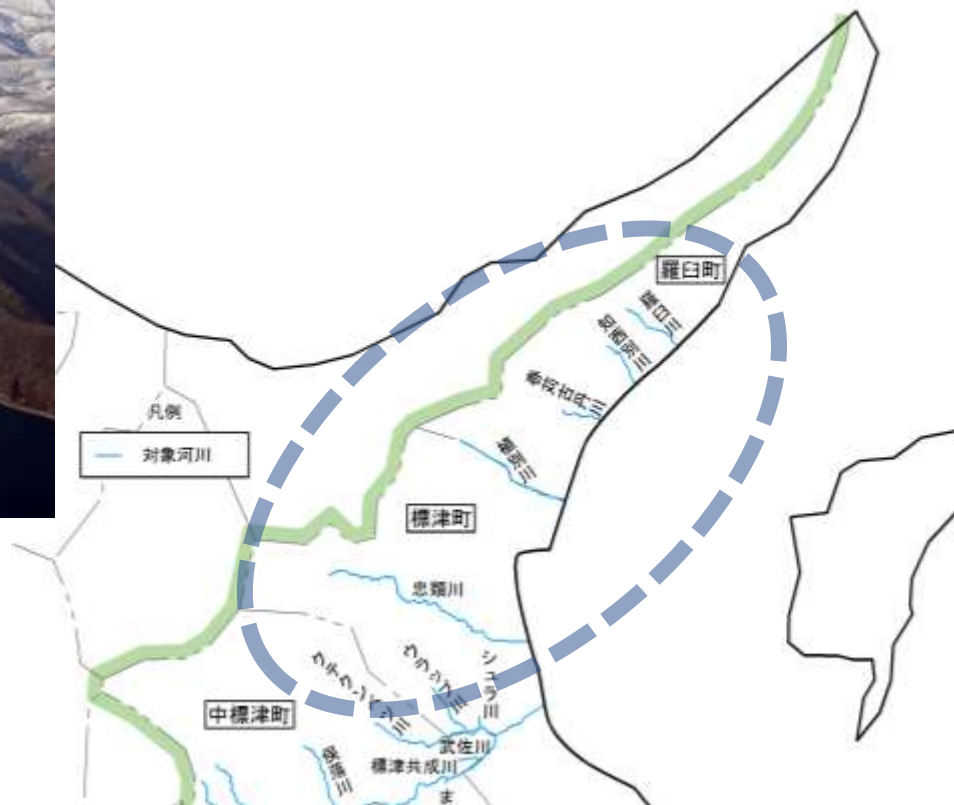
- ・想定最大規模の洪水に対する洪水浸水想定区域図等の検討、作成
- ・避難場所の検討及びハザードマップの作成等による周知に係る取組
- ・避難判断・伝達方法の検討整理及び、水位周知河川における避難勧告発令着目型タイムラインの策定及び充実
- ・水防資機材の充実や水防訓練の取組
- ・防災意識の醸成のための講習会、幼少期からの防災教育の充実
- ・住民及び観光客や市町村外への通勤、通学等の住民に対する情報発信方法の検討

■根室管内北部の河川

- ・市街地や集落がある河口部まで河川勾配や地形勾配が急であり、氾濫水が短時間で流入するため、早期に避難困難水位に達するおそれがある。
- ・河川に近接している主要な道路では、浸水や河岸侵食による被災により、市街地・集落が分断されるおそれがあり、社会経済への影響が懸念される。



知床連山より流出する急峻な羅臼川



■根室管内南部の河川

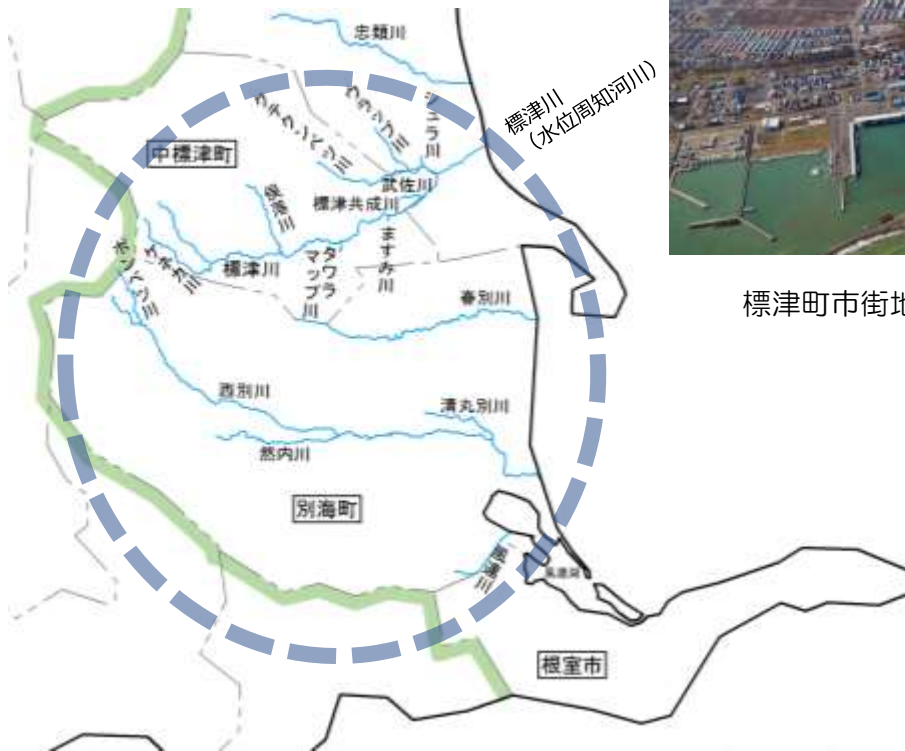
- ・上流域は急激な水位上昇により早期に避難困難水位に達することや、河川に近接する道路が河岸侵食により被災するおそれがある。
- ・中～下流域は、背後に農地や市街地が広がる低平地であり、氾濫水が拡散しやすく浸水が広範囲に及ぶことから、多くの住民が避難を余儀なくされ、公共施設や主要な道路が浸水被害を受けるおそれがあり、社会経済への影響が懸念される。



酪農地帯である根釧台地を流下する標津川



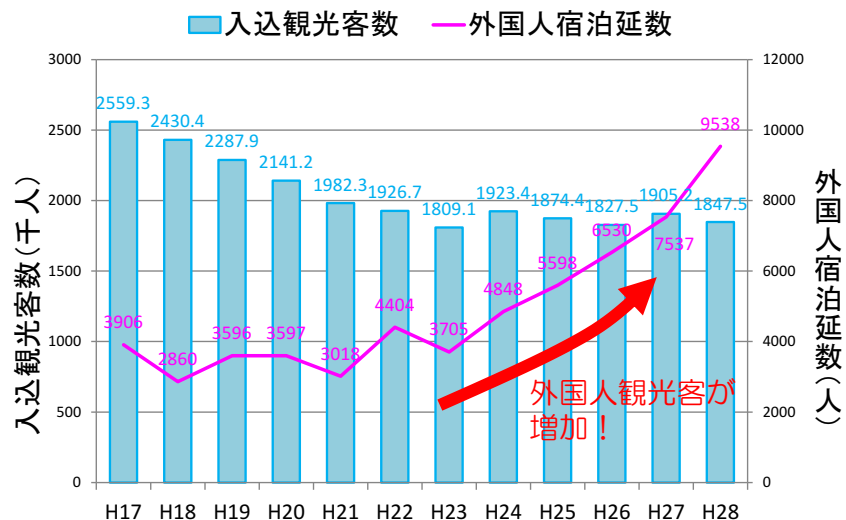
中標津町市街地を流下する標津川



標津町市街地を流下する標津川

■居住市町外への通勤、通学等を行う住民や観光客への情報発信

- ・ 発災時の情報発信不足による避難の遅れが懸念されるため、居住市町外へ通勤、通学等を行う住民や、観光客に対して水害リスクや発災時の行動に関する情報発信を適切に行うことが重要である。



根室管内における観光客数の動向

出典：北海道公表資料から、根室管内について記載



知床連山と羅臼町市街地



開陽台（中標津町）

■概ね4年間で達成すべき目標

根室振興局の二級河川の大規模水害時の急激な水位上昇や広範囲な浸水に対しての「迅速・確実な避難」、「社会経済被害の最小化」を目指す。

■上記目標達成に向けた2つの取組

根室管内の二級河川において水災害防止を目的として河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流す対策に加え、以下の取組を実施。

1. 迅速かつ確実な避難のための避難行動に関する取組
2. 洪水氾濫による、広範囲にわたる浸水被害から社会経済被害を軽減するための的確な水防活動・早期復旧のための取組

主な取組① 河川の施設整備に関する取組 ～河道掘削等の実施～

【現状の取組】

○流下能力が不足している区間において、河道掘削等を実施している。

【課題】

●高さや幅が不足している堤防や流下能力が不足している箇所があり、洪水により氾濫するおそれがある



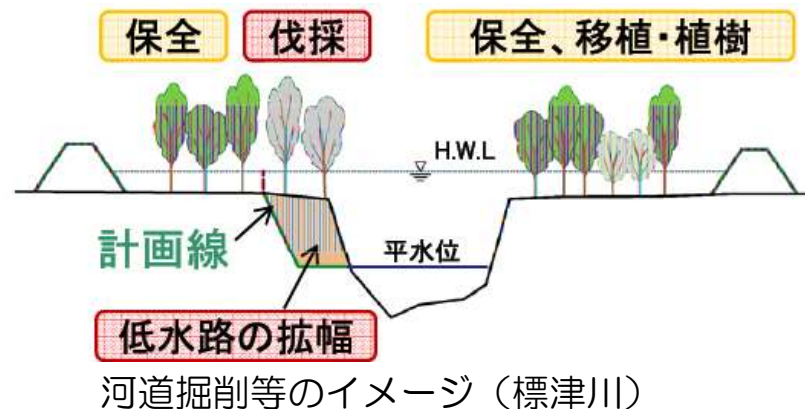
中標津町市街地を流下する標津川

【概ね4年で実施する取組】

・洪水を河川内で安全に流すため、標津川において、河川改修の実施する。

また、「河道内樹木の維持管理のあり方」に基づき、河道内樹木の伐採や河道掘削を実施する。

・堤防天端保護（越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばす対策）の検討及び実施を行う。



主な取組② 円滑かつ迅速な避難のための取組 ～円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備～

【現状の取組】

○水位計を設置しホームページを通じ水位情報を伝達している。

【課題】

●水位計が設置されていない河川では、リアルタイムに水位情報を得て、危険度を把握することができない。

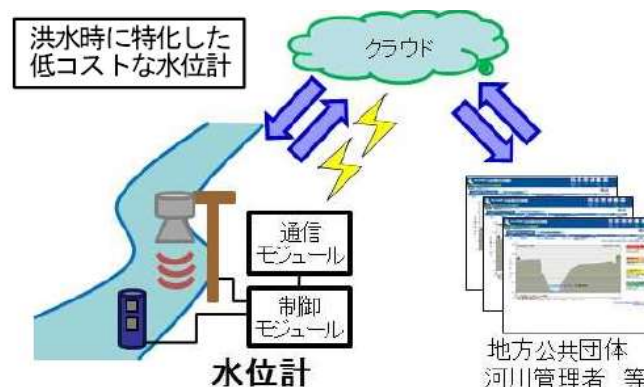


水位観測局舎

根室管内 水位観測所位置図

【概ね4年で実施する取組】

・水害リスクの高い地区に対し、洪水の避難勧告等の発令判断に活用する危機管理型水位計を整備する。



危機管理型水位計のイメージ
国土交通省ホームページより

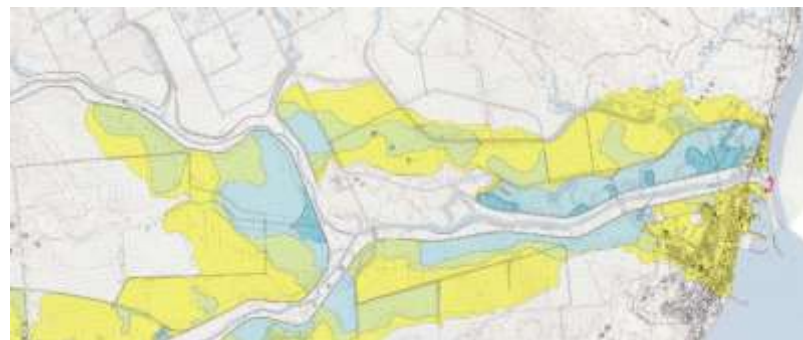
主な取組③ 円滑かつ迅速な避難のための取組 ～情報伝達、避難計画等に関する取組①（洪水浸水想定区域図等作成）～

【現状の取組】

○水位周知河川（※）である標津川では浸水想定区域図を作成し、公表済み（平成20年7月）
 また、想定最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を作成中。

【課題】

●浸水想定区域図が公表されていない河川が氾濫した場合の避難場所・避難経路の検討に苦慮することが懸念される。



現行の浸水想定区域図（標津川）

【概ね4年で実施する取組】

・標津川において、想定最大規模の洪水を対象とした洪水浸水想定区域図を作成・周知する。
 また、新たに水位周知河川に指定する河川について検討する。

・水位周知河川以外の河川において、想定し得る浸水区域や浸水深など水害危険性を周知する方法について検討、調整する。



想定最大規模の洪水浸水
 想定区域図の事例
 （新釧路川）

（※）水位周知河川：河川管理者が避難勧告等の発令の目安となる氾濫危険水位に達した時等に、水位情報の通知及び周知を行う河川

主な取組④ 円滑かつ迅速な避難のための取組 ～情報伝達、避難計画等に関する取組②（洪水時の情報伝達等）～

【現状の取組】

○水位周知河川では、氾濫危険水位に達した時等に、水位の通知及び周知を行っている。
また、河川管理者と町で、氾濫危険水位への到達時など重大な災害が発生するおそれがある場合は、ホットラインで知らせている。

【課題】

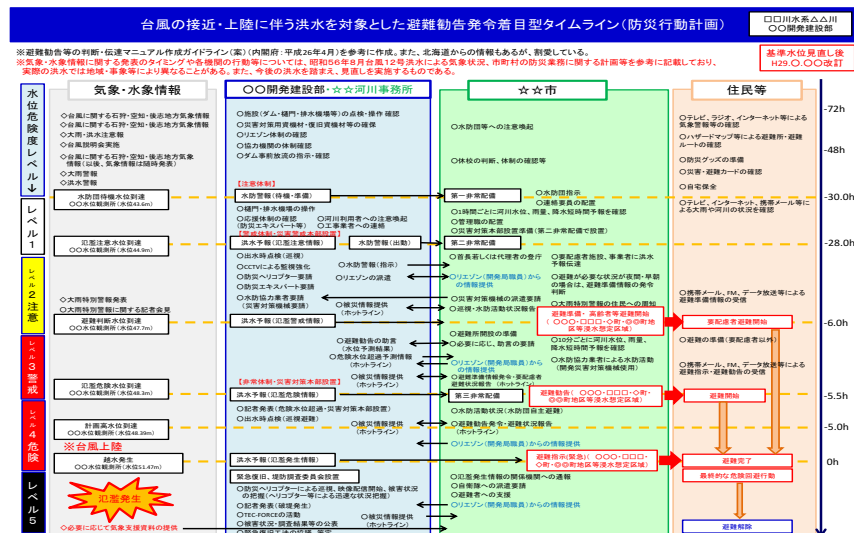
- 防災情報が適切に避難勧告等の発令に繋がるよう、情報提供の内容やタイミングを予め整理することが求められる
- 洪水時の堤防や河川水位の状況など、河川管理者と関係自治体及び関係機関の間で、速やかな情報共有が十分になされない懸念がある。

【概ね4年で実施する取組】

・避難判断・伝達方法の検討整理を行い、水位周知河川における避難勧告着目型タイムラインを策定及び充実を図る。

・洪水時の堤防や河川水位などの情報について、河川管理者と関係市町と関係機関が情報共有する方法を検討する。

・多機関が連携する水防災タイムラインの先行事例紹介や根室管内での展開に向けた検討会等への参加呼びかけ等の支援を行う。



主な取組⑤ 円滑かつ迅速な避難のための取組

～平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する取組①（平時からの周知）～

【現状の取組】

○公表されている浸水想定区域図を基に洪水ハザードマップを作成・周知している。
○避難に関する情報等を防災行政無線・広報車・消防車、ホームページ、SNS、登録制メール、緊急速報メールおよびエリアメールなどにより情報伝達している。

【課題】

- 今後、想定最大規模の洪水における避難場所や避難経路の検討が必要である。
- 観光客や要配慮者へ伝えたい情報が正しく伝わっているか懸念される。



現行のハザードマップ（中標津町）

【概ね4年で実施する取組】

- ・ 想定最大規模の洪水に係る浸水想定区域図等に基づいた避難場所等を検討する。
- ・ ハザードマップの作成等、周知に係る取組を行う。
- ・ 住民及び観光客や市町外への通勤・通学者等に対する平時及び発災時のわかりやすい情報発信方法の検討を行う。
- ・ 要配慮者利用施設における避難場所の確保・訓練等に関する取組を促進する。

【現状の取組】

- 住民対象の講演会・研修会や避難所運営ゲーム（HUG）の北海道版の取組を行っている。
- 防災に特化した授業を行うことで、学校と調整している。
- 広報誌（紙）などによる啓発を行っている。



避難所運営ゲーム（HUG）の様子

【課題】

- 防災情報の意味やその情報による対応が住民には十分認知されていないことが懸念される。
- 住民の防災意識向上のため、住民対象の講習会・研修及び幼少期からの防災教育を実施・継続していく必要がある。

【概ね4年で実施する取組】

- ・防災意識醸成のため、関係機関及び地域住民を対象とした水防災に関する講習会や研修の実施、避難訓練の実施を行う。
 - ・根室管内の特徴を踏まえた幼少期からの防災教育を促進する。
 - ・住民の水防災意識啓発のための広報の充実を行う。
- （水害リスク情報や減災の取組関連情報を一元的に情報発信し、関係機関のHPからアクセスしやすくする等）

主な取組⑦ 的確な水防活動のための取組 ～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組①（水防力の強化）～

【現状の取組】

○重要水防箇所はホームページなどで確認し、洪水の恐れがある場合、巡視を行っている。
 ○河川管理者、気象庁からの発表に基づき、必要に応じ水防団や住民に情報伝達している。
 ○水防資機材を保有しており、毎年水防資機材の保有状況について確認をしている。



河川パトロール状況

【課題】

- 近隣住民、水防団へのリスク情報の周知が十分とは言えない。
- 水防活動が多地点で行われる場合、資機材の不足が懸念されるとともに、共有方法や相互支援の方法が確立されていない。



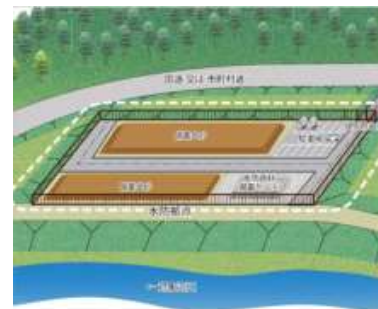
防災資材備蓄倉庫の備蓄状況（根室振興局）

【概ね4年で実施する取組】

- ・重要水防箇所の見直しや水防活動関係者との確認を行う。
- ・関係機関が連携した水防訓練を実施する。
- ・水防資機材の充実・維持を図り、根室振興局河川減災対策協議会での情報共有を行う。
- ・防災資材備蓄整備施設の検討及び整備を行う。



釧路川総合水防演習広域連携
 防災訓練の様子
 （釧路開発建設部ホームページ）



防災資材備蓄整備施設の
 整備イメージ

主な取組⑧ 的確な水防活動のための取組

～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組②（水防体制の強化）～

【現状の取組】

- 大雨等河川水位の上昇が予想される場合には不測の事態に対処できる体制を整えている。
- 避難誘導は、地域防災計画に基づき市町職員、警察、水防団（＝消防団）が実施する。

【課題】

- 経験したことのない洪水により、対処できる体制を越える事態が懸念される。
- 水防団員の高齢化と減少傾向のため、避難誘導時に人員が不足することが懸念される。

【概ね4年で実施する取組】

- ・根室管内市町及び関係機関間での防災・減災に係る情報共有手段及び応援等要請手続の確認を行う。
- ・排水ポンプ車等の出動等に係る関係機関との調整方法の確認を行う。
- ・平時からリエゾンやテックフォース活動状況の情報提供や災害時における活動による支援を行う。
- ・浸水区域内の災害時拠点施設の情報伝達や機能確保ための対策の検討を行う。
- ・消防団員（＝水防団員）の確保に向けた広報等を行う。

フォローアップ

本取組方針については、今後の取組状況を踏まえ随時見直しを行うこととしており、毎年、進捗状況を共有するなど持続的なフォローアップを行い、随時、取組方針を見直すこととする。

根室管内の減災に係る取組方針 フォローアップ

目標	取組事項	具体的取組	進捗達成度				取組主体		備考
			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度			
円滑かつ迅速な避難のため取組	情報伝達、避難計画等に関する取組	洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの確認							
		避難勧告等の発令対象区域、発令判断基準等の確認							
		・							